

も清楚な身なりでうれしくなる。男子大学生も今風の身なりである。使用前の大学生と使用後のわたし。そんなことを考ふる。駅まではパチンコ屋やスロットマシンゲームの店もある。ここにも若い人が屯している。開店を待っているのである。

は量が多すぎる。残すのはもったいないので、わが家の朝食となる。福岡空港まで我慢すれば博多うどんが見える。空港の待合室では、いろいろな人が我当やサンドイッチを食している。こんな風景に接したことがある。40代の女の人の一人旅で

服装や表情から推測して、故郷のどなたかの葬式だったのではないか。空港は冠婚葬祭の人でいっぱいである。わたしも父と母の骨壺は飛行機で運んだ。スチュワーデスのほほ笑みは哀悼の意のほほ笑みであった。今

たしていると、すつと制服の女の人気が寄つて来て手続きを手伝ってくれる。「こんな人が恩子の嫁になつてくれればなあ」。すっかり、年寄りなのである。

若い日に2カ月くらいのアフリカ旅行をしたことがあるが、若い日でよかつた。いまならサ

肯立ちの向へう側

松浦市に午後3時ころに着到するには午前11時台の飛行機に乗らなければならない。羽田発11時15分である。そそくさと朝食をすまし、8時40分の羽田行きのバスに乗る。バスは駅三つ先の新百合ヶ丘駅発である。わたしの家の最寄りの向ヶ丘遊園駅まで急ぎ足である。

駅までの道路で大学生たちと
すれ違う。向ヶ丘遊園には二つ
の大学がある。専修大学と明治
大学である。どちらの女子大生

どう見ても学生風である。朝から親の仕送りでゲームをするのがと小腹が立つたりもする。昔、「馬で金儲けした奴はないよ」と植木等が歌っていたが、ゲームもそうなのではないか。

わたしは空港の鮓寿司が好物である。ただ、一人で食するに

あつた。その人は待合室の椅子に座り、鞄の中から握り飯の包みを取り出した。少し大き目の手作りの握り飯が二つ。多分、家族の朝食の残り飯を自分で握った握り飯ではないか。節約の握り飯である。わたしはこの40代の女人の人生の越し方がう

親をしながら「こんな人か息子の嫁になつてくれればなあ」と思つたものである。わたしは一人旅に慣れていない。チームで動くか、室内と動くかである。羽田空港は広い。第1や第2ターミナル、ウイングがどうのうのと戸惑つてしまふ。もとも

い。わたしも少年時代に星鹿の老人からよく言われたものである。あの老人の奇立ちはよくわかる。からなかつたが、いまはよくわかる。若い奴とは若い男の奴の意味だったのだ。いつの時代も、若い男は老人を勞わるのには照れるものなのである。